

令和6年度 中小企業活性化施策の実施状況に関する主な意見

(令和6年度第3回 川崎市産業振興協議会・中小企業活性化専門部会)

検証対象施策	川崎市産業振興協議会からの主な検証意見
第12条 創業、経営の革新等の促進	
1 起業化総合支援事業 2 新産業創造支援事業 3 ソーシャルビジネス	・POC(概念実証)フィールドを提供することがこれから大事になってくる。 ・起業件数を増やすこと、スタートアップにおける資金調達に向けた支援などを重点的にやっていただきたい。 ・NEDOが出資する国家的プロジェクトと連携して川崎市の取組もPRした方が良い。 ・ソーシャルビジネスの起業件数の増加に向け、市の支援機関をより多くの人に知ってもらう仕組と広報の強化が必要ではないか。 ・イベントやセミナーの参加者、各種支援施策を利用した人たちによるコミュニティ(プラットフォーム)を形成することが、経済の活性化には必要だし、そのような人たちがインフルエンサーとして情報発信をするほうが、より効果的な広報になるのではないか。
第13条 連携の促進	
5 知的財産戦略推進事業	・知的財産の活用事例について、数字で見えない定性的な効果や取組内容などについて、もっとPRしてもよいのではないか。
6 クリエイティブ産業活用促進事業	・会社の方針をクリエイターに的確に伝えることが難しいため、会社とクリエイターを繋ぐ専門家がいるといいのではないか。
第14条 研究及び開発の支援	
7 新川崎・創造のもり推進事業	・量子コンピューターの普及には、若い人にもっと興味を持ってもらう取組が必要ではないか。 ・量子関連の研究をしている企業や人等を呼び寄せ、「量子のまち」としてプラットフォームを作り、色々な観点から量子コンピュータで何ができるかを検討していければ良い。

検証対象施策	川崎市産業振興協議会からの主な検証意見
第16条 地域の活性化の促進	
17 商業力強化事業 18 商店街活性化・まちづくり連動事業	・気候変動により、日中暑い日が増え、その中でイベントをすることが大変になってきており、夜にイベントを実施するなど、時代の変化に合わせた開催手法などが必要ではないか。 ・商店街に加入しない個店も増えてきているが、入ってもらうためには魅力のある商店街であることが必要なので、商店街の活性化に向けて支援を強化してほしい。 ・キャッシュレス端末の導入は避けて通れないが、維持コストもかかるので、それ以外の経営面の課題を見直すことも必要だ。 ・そもそも店舗にWi-Fiが無いから端末を導入できないという問題もあるので、インフラ面から支援が必要だ。 ・高校生など若い世代に協力してもらい、買い物に来る高齢者に対し、キャッシュレス決済のやり方を学んでもらう機会を作るなど、高齢者に優しい商店街を目指すこともいいのではないかな。 ・魅力のある店舗があったとしても、意外と知られていないことがあるので、もっと効果的なPRが必要ではないか。
21 観光振興事業 22 産業観光推進事業 23 市制記念花火大会事業	・川崎はアドベンチャーツーリズムを目指していくことが求められるのではないかな。客単価が高い層や文化・自然を体験しようという層をどう市内に誘引するかについて戦略が必要ではないか。川崎を好きになって何度も訪れてくれる外国人を積極的に誘致していくような戦略目標に切り替えても良い。
24 川崎市コンベンションホール管理運営事業	・コンベンションホールは、立地もよく施設も素晴らしいが、稼働率をあげるためにもっとPRが必要ではないか。
第17条 人材の確保及び育成	
25 雇用労働対策・就業支援事業	・学生たちに、大企業でなく、中小企業が選ばれるよう、学生の親への教育や、働き甲斐を学生たちに知ってもらう機会があると良い。 ・女性の結婚・出産後の復職支援を行ってほしい。 ・中途採用をする際、大企業を退職した優秀な人材と中小企業とをマッチングする取組があったら面白い。 ・川崎ブランディングが広がってくるとよい。東京や横浜で働きたいというのは聞くが、川崎で働きたい、というのはあまり聞かない。そういった部分の魅力化というのを市全体として出してくれるといい。 ・高齢者を労働力として活用することも大切なので、取組として強化していくべきだ。 ・就職先を選択するにあたり、賃金などの労働条件以外を重視する人は一定いる。川崎は暮らしやすい、おもしろい、ベンチャーが多く育っているというように川崎の魅力・風景を企業と一緒にPRしていければ良い。 ・若者は厳しすぎても、緩すぎても辞めてしまうという分析もあり、定着させるためには、特にコミュニケーション、個人に応じたマネジメントが大事である。企業が実施するマネジメント研修に対して市の予算で補助があると、若手社員の定着率に繋がると思う。